

様式 2-6

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成29年度）
 — 研究課題 2（4）ESD —

| | | | |
|-------------|---|------------|-----|
| 都道府県・指定都市番号 | 5 | 都道府県・指定都市名 | 秋田県 |
|-------------|---|------------|-----|

1 研究指定校の概要

| | | | | | |
|--------------|---|---------------------------|--------------|-----------------|---|
| ふりがな 学校名 | だいせんしりつ 大仙市立 | おおまがりみなみちゅうがっこう 大曲南中学校 | ふりがな 校長氏名 | ごとう ひろし 後藤 宏 | |
| 所在地 | 〒014-1412 秋田県大仙市藤木字上野中 70 番地 2 電話 0187-65-2001 FAX 0187-65-2051 E-mail om-minamityu@edu.city.daisen.akita.jp | | | | |
| (H29.4.1 見込) | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 計 | (H29.4.1 見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 13 名 |
| 学級数 | 1 | 2 | 1 | 4 | |
| 生徒数 | 24 | 22 | 30 | 76 | |
| 特記事項 | 1 年生は、2 学級のうち 1 学級が特別支援学級である。 | | | | |

2 研究主題等

| | |
|------------|---|
| 学校における研究主題 | 持続可能な社会に向けた人づくりを目指した 問題解決的な学習を中心とする全教育活動における指導方法等の工夫改善 |
|------------|---|

3 平成28年度の成果と課題

| |
|---|
| <p>成果について</p> <p>○「大曲南中 ESD」を設定し、ポスターやホームページ、学校報等で積極的に発信したことにより、学校教育全体で ESD を体系的に推進していることについて生徒や教師の意識化が図られるとともに、保護者や地域にも学校の取組が周知され連携が強まった。</p> <p>※「大曲南中 ESD」とは、「『何とかしなければ!』という思いを行動につなげられる人を目指そう!」を目標に、本校生徒の実態から、普段の学習で身に付けたい力を「コミュニケーションを行う力」「批判的に考える力」「多面的・総合的に考える力」とし、総合的な学習の時間を中心に身に付けたい力を「進んで課題を見付ける力」「学んだことを発信する力」「生活に活用する力」とした本研究の指針である。</p> <p>○授業における小グループを中心とした「学び合い」の充実や、生徒の企画運営による生徒集会の継続により、自分の考えを積極的に発言したり、相手の考えを基に発言したりする力が育まれた。</p> <p>○総合的な学習の時間や生徒会活動でも「大曲南中 ESD」を意識させたことで、生徒会執行部を中心に、あいさつ運動や熊本地震、ユニセフへの募金等、自分たちの課題や身の回りの課題に気づき、解決のための手立てを講じて実践しようとする「態度化」が見られるようになった。</p> <p>○「大曲南中 ESD」に係る生徒アンケートの結果から、「コミュニケーション能力」や「批判的に考える力」の高まりが確認された。また、「進んで課題意識をもつ」に関する項目にも伸びが見られた。教職員のアンケート結果でも、生徒に付けたい力の伸びが実感できた。</p> <p>○授業公開では、参観者から生徒のコミュニケーション能力の高さや思考や発言内容の深まり等について高評価を得るなど、研究の成果を他者の目に映る「生徒の姿」としても捉えることができた。</p> <p>課題について</p> <p>○全教科等での「共通実践事項」の定着が今一步であり、授業改善についての教師の意識に差がある。</p> <p>※「共通実践事項」とは、①生徒自らの「問い」を引き出す課題設定、②「受信→思考→発信」のサイクルに基づく「聴く」指導の徹底、③交流を通して課題解決を図る活動の重視、④「比較・検討を中心とした学び合い」の設定、⑤自己の考えを深める「振り返り」の設定の五つである。</p> |
|---|

- 総合的な学習の時間における環境学習については、ねらいや付けたい力を十分明確にできなかったため、活動の深まりに欠け、生徒の確かな力につながきれていない。
- 「大曲南中E S D」に係る生徒のアンケート結果から、「相手の意見を聞き、さらに自分の考えをもう一度見直しよりよいものにする」「物事をメリット・デメリットの両面から見ることができる」については数値が伸びておらず、更なる授業改善が必要である。

4 平成29年度の研究計画

(1) 本年度の研究の重点等

- 「大曲南中E S D」が目指す、生徒に身に付けさせたい力とその手立てを全教員が明確に捉えて日々の授業実践に生かすために、意図的・計画的な研修を充実させる。
 - ・全教科の授業における「共通実践事項」の徹底と、全教員の授業公開を通じた研修を計画的に進め、教科の枠を超えた視点での授業研究の更なる充実と深化を図る。
 - ・「比較・検討を中心とした学び合い」の更なる充実を通して、自分の考えを他の考えと比較して類似点や相違点を見出すだけでなく、自分の考えを再構築して発信できるような力の育成を目指す。
 - ・成果の検証に生かす「振り返り」の記述、アンケート項目や実施方法等、評価の在り方について検討し継続的に実践を積み重ねる。
- 各学年のテーマに応じた環境教育の体験活動については、生徒に付けたい力を明確にして内容の見直しを図るとともに、生徒会活動と連動させながら実践力を育む。
- 生徒の企画運営による生徒集会や生徒会活動等、「大曲南中E S D」で育んだ力が発揮できるような機会と場を設定しながら、身の回りの課題に気づき、解決のための手立てを講じて実践するという「態度化」に結びつける。
- 大曲南地区で小・中連携を通してE S Dを体系的に進めるために、小・中の合同研究を充実させる。
 - ・9年間を通して身に付けさせたいE S Dの資質・能力について、発達段階に応じた具体的な子どもの姿を設定し、「大曲南地区E S D」の取組としてリーフレット等にまとめる。
 - ・「E S Dカレンダー」については、単元で育成すべき力やそのつながりの視覚化を図り、より活用しやすいものを目指すとともに、そこに示された諸行事、諸活動についてねらいとの整合性を図りながら不断の見直しを行う。
 - ・「生徒に身に付けさせたい力」がどの程度身に付いたかを把握し、改善の手立てを講じるための適切な評価の在り方を検討し実践する。
 - ・11月の大曲南地区環境オープンスクールでの合同授業（総合的な学習の時間）に向けて、小・中教員の合同研修の機会を計画的に設定していく。

(2) 研究計画

| 実施時期 | 研究内容, 研究方法, 成果の公開等 | 期待される成果等 |
|------|---|--|
| 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・E S D研究推進委員会開催 ・「大曲南中E S D」に関する生徒, 教師, 保護者アンケート及びE S D意識調査の検証・検討(4月, 7月, 12月) ・E S D校内研修実施①4月(②6月③8月④10月⑤2月) ・大曲南地区E S D小・中連携協議会①5月(②7月③10月④2月) ・全国学力・学習状況調査の結果分析による生徒の変容の把握 ・小学校や地域と連携した体験活動の実施(クリーンアップ, アルミ缶回収等) ・総合的な学習の時間の全校オリエンテーション ・校内授業研究会の実施(一人一授業) ・生徒の企画運営による集会の実施(月2回) | <ul style="list-style-type: none"> ・研究の方向性確認 ・検証改善サイクルの確立 ・新体制で研究内容や研究方法について確認 ・小中共同研究の内容や方法, 研修会の持ち方等について検討 ・「大曲南中E S D」の確認 ・「共通実践事項」による授業改善の推進 |

| | | |
|----|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ E S D研修会の実施（小・中合同研修）※5月25日（木）予定 小・中の授業研究及び講演 講師 目白大学 石田好広 教授 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師からのアドバイスによる研究の深化・充実 |
| 後期 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校祭における総合的な学習の時間の取組発表 ・ 「大曲南地区E S Dリーフレット」作成 ・ 公開授業研究会及び大曲南地区小・中連携オープンスクール ※11月22日（水）予定 ・ 秋田県学習状況調査の分析結果からの成果と課題の把握 ・ 指定事業研究協議会での発表 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究成果の地域への発信 ・ 小・中連携によるE S Dの推進 ・ 公開研究会での成果検証 ・ 研究のまとめと発信 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ※環境学習に関する次のような活動は年間を通して実施 ・ 食育の推進（緑のカーテンプロジェクト、有機肥料による野菜栽培、エコクッキング、市場見学等） ・ エネルギー教育の推進（エネルギー関連施設見学等） ・ 国際教育の推進（A L Tによる出前授業、国際教養大学訪問、ドイツのユネスコスクールとメールで交流、オーストラリアのハイスクールとスカイプで交流、国際教養大学の留学生による進路集会等） | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習で身に付けた力が発揮できる機会と場の設定 |

5 研究のまとめの見通し

本研究は、本校が継続して取り組んできた総合的な学習の時間の柱である環境教育と、問題解決的な学習を核にした授業改善をE S Dの視点で体系化することで、「確かな学力」や「生きる力」を身に付けた生徒を育てることが目的である。研究の指針として「大曲南中E S D」を設定し、生徒に身に付けさせたい力を明確にして積極的に発信し、生徒や教師、保護者や地域が、学校が目指しているものを共通理解しながら進めてきた。この一年で、「よりよい生徒の姿」を目指すためのベクトルが一つになってきたような気がする。

研究指定に係る中間公開授業研究会では、授業公開と環境教育に関する小・中交流授業を公開し、参観者から「研究を通して、生徒の力が確実に育まれていること」について高い評価をいただいたことは、昨年度の研究成果の一端と捉えている。

今年度は、昨年度の成果と課題をもとに更に深化・充実した研究ができればと考えている。特に、本校の研究指定を、近隣の小学校との共同研究という形で連携を強めながら、E S Dを中学校としてだけではなく小中の9年間を見通したものとして体系化していくことが、更なる子どもの力になるものとする。11月には、2年間の研究成果のまとめとしての公開授業研究会で、小・中合同での総合的な学習の時間の授業を計画している。そのためにも、年度当初からE S D小・中連携協議会を機能させながら、小・中合同での研修も取り入れていきたい。

大仙市や秋田県内の現状に於いては、未だE S Dの認識が十分であるとは言えないが、本校だけでなく小学校との連携した取組を発信しながらE S Dの具体的なイメージを提示し、更なる推進につながる一助としたい。

なお、研究成果の検証方法としては、次の点を検討している。

- ①校内授業研究会（一人一授業）を実施、E S Dの視点を踏まえた授業について研究協議を行う。
- ②公開授業研究会及び大曲南地区小・中連携オープンスクールを開催することで、県内の教員や保護者地域に授業や取組を公開する。
- ③E S D通信の発行や学校報、学校HP等で外部に積極的に取組や成果等を発信するとともに、大曲南地区のE S Dの取組をまとめたリーフレットを作成する。
- ④生徒、教師、保護者アンケートのP D C Aサイクルを年間3回実施したり、公開授業等による評価を実施したりする。
- ⑤全国学力・学習状況調査や秋田県学習状況調査における「活用に関する問題」の正答率及び質問紙のE S Dに関する設問の回答を分析する。